

千年の森便り No.247

2024.7.28

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

7月7日（日）天候 晴れ

臨時活動として、ちば里山センターと共催でナラ枯れ枯死木伐採研修会を開催しました。研修会の目的は、ロープワークを使って危険な枯死木を安全に伐倒する方法を見学し習得することです。ちば里山センター理事の赤松氏と、ちば里山_Peopleの友塚氏のお二人を講師にお招きし、公開行事として実施しました。研修会では、使用する道具、ロープの結び方、実際の伐採方法等について話がありました。参加者は、講師2名、一般参加6名、会員5名の計13名でした。



〇ロープワークを使った伐倒方法の概要

- 1 スローラインを使って倒す木の高い位置にロープを通す。この時、ロープと木の摩擦を減らすためにハウススリーブを使用する。
- 2 ロープの一方の先端を伐倒方向の木(1)にティンバーヒッチで固定してアンカーとする。
- 3 ロープのもう一方を、伐倒方向の木(2)に設置した滑車に通す。（伐倒方向は、伐倒方向の木(1)と(2)の間）
- 4 滑車を通したロープにプルーシックコードを巻き、ローププラーの牽引ロープに接続する。
- 5 ローププラーは、倒す木より後方の安全な位置に固定する。
- 6 ローププラーで牽引してロープにテンションをかけ、受け口、追い口を入れる。
- 7 ローププラーで牽引して伐倒する。



スローウェイトをスローラインに結ぶ



スローラインでロープをかける



ロープにプルーシックコードを巻く



受け口、追い口のチェック

〇貴重な体験をさせて頂きました（佐倉畔田谷津WS 金川さん）

東金のチェーンソー講習で人生初めてチェーンソーに触れ、修了証を頂いたものの不安で一杯でした。改めて本日の講習を受け感じたことを記します。

- 1.倒木作業に出てくる、専門用語、ツールの名前をかなり理解できた。
スローライン、ロープワーク用語、ハウススリーブ、アンカー（碇）、ハンドウィンチ（チルホール）…
初めてのワードばかり！これを知らないと、説明が分からない。
- 2.ロープワークの重要性が理解できた。頂いたロープで練習します。
- 3.私のようなド初心者の参加で、御苦労された事と思います。心より感謝いたします。
これからもYouTubeで、多数の倒木作業動画を観て、勉強に励みます。
講師の皆様、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

○「ナラ枯れ枯れ死木材伐採研修会」に参加して（里山・竹の会 戸塚さん）

7月7日（日）猛暑の中、コロナ禍以来久しぶりの研修会に参加しました。豊英島は2回目ですが、千葉にこんな地形・風景があると毎回感心します。

「ちば千年の森をつくる会」の活動歴は21年を超えると聞きます。「里山の整備・育成・保護・観察」には長い時間が必要、継続が必須と改めて感じます。自分達は活動して13年目、未だ未だこれからです。

自分が他団体の現場作業の見学時に留意する事は「安全対策」「機器の手入れ」「作業の精度・練度」です。「作業の基本（原則）」は変わらないが現場状況により対応する。今回も伐採する木・状況に応じて作業をされていました。特に「機器の手入れ・扱い」「作業の精度・練度」はさすがに慣れていると感じました。

講師の赤松さん、友塚さん暑い中お疲れ様でした。大変勉強になり今後の活動に参考にさせていただきます。

今回の企画をして頂いた「ちば千年の森をつくる会」福島さん、「ちば里山センター」伊藤さん、並びに関係のスタッフの皆様有難うございました。

7月15日（月祝）天候 曇り

例年は8月に公開行事として開催している夏のきのこ観察会を、今年は初めて7月に開催しました。梅雨明け前ということで前日までお天気が心配でしたが、当日は晴れたり曇ったりで雨に降られることなく観察会を行うことができました。講師には、吹春先生ご夫妻と硬いきのこに詳しい中島先生をお迎えし、豪華講師陣によるきのこ観察会となりました。参加者は、講師3名、一般参加12名、会員7名の計22名でした。



秋のきのこ観察会は10月14日（月祝）に開催予定です。お楽しみに！

○午前中は参加者全員できのこの探索



ベニタケの仲間



キニガイグチ



キニガイグチの傘の裏



オオツルタケ



ウチワタケ



みんなできのこ探し



森の中できのこの解説



ひと汗かいてお昼ごはん

○午後はきのこの同定と解説



採取したきのこを並べる



みなさん研究熱心です



吹春講師の解説



中島講師の解説



カブラテングタケ



アオミドリタマゴテングタケ



硬いきのこいろいろ



軟らかいきのこいろいろ

○吹春講師による軟らかいきのこの解説

吹春講師からは、千葉県で見られる代表的なきのこを主に胞子の色で分けた資料と、きのこの不思議という千葉菌類談話会で作成した冊子の提供がありました。

初めて聞いた話としては、傘の裏にヒダを持つ担子菌は、表面張力を利用して胞子を担子器から重力加速度の2万倍の力で打ち出している（詳しくはブ্লাズドロップで検索してみてください）とか、これに対して胞子を射出する仕組みを失った腹菌類は、動物をおびき寄せたり、雨滴の力を利用するなど他人まかせの方法で胞子を飛ばすという話がありました。

採取されたきのことして、ベニタケの仲間（もろいきのこでどの方向からも壊れやすい）、カワキタケ（強靱な肉質）、旧キシメジ科（現在はタマバリタケ科）のコブリピロードツエタケ、ダイダイガサ、テングタケ科ではツルタケ（ツバがなく傘に条線あり）、オオツルタケ（柄に模様がありヒダに縁取りがある）、カバイロツルタケ（傘の表面が茶色）、ドクツルタケ（猛毒、食べて1週間後に腎臓、肝臓が壊れる）、カブラテングタケ（東南アジアからつながるシイカシ林のきのこで、これが見られることは自慢できる）、コトヒラシロテングタケ（塩素臭がある）、アオミドリタマゴテングタケ（千葉市泉自然公園で千葉菌類談話会により発見され新種記載された）、イグチ科ではキニガイグチ（シイカシ林に発生、今回多く採取された）などについて解説いただきました。

吹春講師、中島講師に作成していただいた観察記録は7~8ページに掲載してあります。（福島）

○中島講師による軟らかいきのこの解説

中島講師からは、初めに菌類から見た豊英島の特徴について説明がありました。資料によると、豊英島は全国706か所の観察地のうちで観察記録件数32位、観察された分類分数25位、多様度指数は19位（Shannon）、7位（Simpson）となっており、全国的に見て菌類の多様性が非常に高い場所だそうです。また、オオミダレアミタケはこの地域の固有種（ここにしかない）であること、稀産種としてはヌメリアイタケ、トビチャチタケが挙げられるとのことでした。

硬いきのこはほぼ腐生菌で、ナラ枯れで枯れた木にハカワラタケ、ウチワタケが多くみられますが、神奈川県で大発生しているオオミコブタケが見られなかったそうです。オオミコブタケは、枯れ木の根元に発生し、これによって根が腐朽して木が倒れやすくなるとのこと。今後、千葉県でも増えてくるかもしれません。

地味な茶色のきのこが多い中で、色が鮮やかなものとしてはヒイロタケ（緋色）がある。また、傘の裏の穴で比較すると、ウチワタケ（小さい）、ヒイロタケ（穴の密度が高い）、アミスギタケ（穴が大きい）、クジラタケ（穴

が丸い)という特徴があるので、写真を撮る時は傘の裏も撮っておくことが大切。

枯れた松に出るヒトクチャタケは、臭いで虫を集めて虫に胞子を運んでもらうきのこ、エゴノキタケはエゴノキに出る宿主選好性のきのこ、ケシワウロコタケはナラ枯れの木に出るが、一緒に見られる紫色のカビのようなものも同じきのこかもしれない、カワラタケは変異が多く種が分かれる可能性がある、根状菌糸束で伸びていくダイダイヤワツツアナタケらしきものが見つかった(日本には研究者がいない)、核菌類のクロコブタケ、枯れ木の中で緑青色を出すロクショウグサレキン、偽菌核(枯れ木の表面が黒く覆われたもの)を作るオオゴムタケなどについて解説いただきました。中島講師の観察記録(iNaturalist)と配布資料はこちら↓、写真もあります。

https://www.inaturalist.org/observations?place_id=any&q=Toyofusa202407&search_on=tags&subview=table

https://mycoscouter.coolblog.jp/daikinrin/iNat_JP_dashboard_index.html

(福島)

〇きのこに対する愛着が湧きました(金子真吾さま)

普段は、街中で樹木の危険木等の診断で、樹木に危険を及ぼす、きのこの発生等のチェックをしているのですが、私はきのこの知識に乏しく、今回の観察会に参加させて頂きました。今回の参加で、きのこに対する基本的な見方や採取の仕方、また、種による特性などのお話しが聞け、きのこに対する苦手意識が少し取れた様な気がいたしました。また、きのこに対する愛着が湧きました。

きのこは森にとって、大切な役割をしており、森の環境を映し出しているのだからって思いました。

〇想像以上の数と種類のきのこ(鶴見法子さま)

私は長い間、千葉県に住んでいて豊英ダムを知らず、ましてその中に島がありその島に「千年の森」と言う場所があるなんて全く知りませんでした。現地へ行くと吊り橋があり、そこを渡ると何となく良い具合に人の手が入りながらも自然の森の逞しさみたいなものを感じさせてくれる島でした。

正直言って私の子供の頃の体験では秋になると松林に行き、キノコ取りをしていたので、キノコは秋に出るものなのに何で梅雨の時期に観察会??と意外でした。でも雑木林のキノコってどんなものが取れるのか興味津々でした。

先生の話聞きながら島の中を歩く中でキノコと植物のとの関連にも目を向ける事ができ、キノコ(菌)と木は互いに共生しあっている事も学びました。皆さんと取ったキノコを集めると想像以上の数と種類の物が集まったので、そのキノコを前に楽しく先生の話聞くことができ、大勢でキノコを採取する醍醐味も知ることができました。

私はいつも山に行くとそこに生えている植物ばかりに目を向けていましたが、今度からは見方を変えて山歩きを試みたいと思いました。この様な企画を立てて下さったスタッフの方々に感謝いたします。



ご夫婦で参加

〇また違う季節のきのこも見てみたい(橋立瑞希さま)

初めて参加させて頂きました。島へは橋を渡って入ります。すでに楽しい!

集合場所に荷物を置いて、きのこを入れるカゴを持って散策開始。森を歩く、下ばかり見ながら。きのこって見つけると嬉しいですね!所々立ち止まるとは、参加者の方と見つけたものについて意見交換。専門家の先生がいるのでなんでも聞けちゃうのは最高です!

また違う季節のきのこも見てみたいです。ありがとうございました!

○野生のきのこが身近になりました（西村桂子さま）

きのこは食卓やスーパーでみるものばかりでしたが、きのこ観察会があると知り参加させて頂きました。

豊英湖へは釣りやキャンプに行った思い出がありましたが、豊英島は「ちば千年の森を作る会」のみなさんが長年整備をしてくださって、「多様な生き物の宝庫」「美しい水辺と生き生きとした森」本当に素晴らしい環境でした。きのこ観察会では、先生方がマイクを使って詳しく説明してくださって、国内には 3000 種類以上のきのこが発見されている中、豊英島には 270 種類以上が生息していると知り、最初は触るのも躊躇っていたのですが、口に入れてみる事もできるほど、野生のきのこが身近になりました。



森の中でマイクを使ってきのこの解説

きのこのおかげで森が循環している事を知り、自然の力や役割に感動しました。私が見つけたのは約 10 種類でしたがみなさんと合わせると 40 種類以上のきのこが集まり、最後は詳しく解説をして頂き、とても勉強になりました。

○ヤマユリ雑感

7月の里山を飾る花はヤマユリです。当日の集合場所に至る途中では豊英集落の棚田の土手にも咲いていたので、道端に車を止めて撮影しました（左写真）。島内では千年広場に接したギャップの植生実験地内にも 10 株以上が咲いていました。

ユリの仲間は野生種とは思えない程の美しさがあると思います。欧米の人々も魅了され、園芸目的の需要が高かったので球根の輸出が生糸と並ぶ重要品目だった時代がありました。今では欧米で品種改良されたカサブランカなどの園芸種を逆輸入する立場に成り下がっています。原種があまりにも完成された美しさだったので、それ以上の改良はあり得無いと日本人が油断しているうちに先を越された感があります。



棚田の土手に咲くヤマユリ

以下の文章は「山百合の輸出」について AI が作成したものを一部添削したものです。

山百合（ヤマユリ）は、日本に自生する 15 種類のユリの一つで、その美しさは欧米の人々を魅了しました。江戸時代末期から昭和中期まで、日本の輸出特産物として外貨を稼ぐ一翼を担い、明治時代から大正初期にかけて、横浜港からヤマユリの球根が大量に輸出されていました。盛んな時期には年間 4000 万球にも達したと言われています。この輸出は、日本政府が初めて公式に参加した万国博覧会（明治 6 年 / 1873 年にオーストリアのウィーンで開催）で日本のユリが出品されたことをきっかけに、爆発的に増加しました。ユリは、イースターやクリスマスの装飾用として広く愛され、特に欧米諸国で人気を博しました。ヤマユリの輸出は、横浜港を中心に行われ、そのほとんどがイギリスとアメリカ合衆国に向けて運ばれました。また、鹿児島県の南島地域も重要な産地となり、「永良部百合」として海外でも親しまれました。ヤマユリは、日本の園芸文化と外交交流において重要な役割を果たした花であり、その美しさは今なお多くの人々を魅了しています。（坂本）

○コナラ伐採地の樹木に樹名板を設置する準備

2014年、コナラ林に人為的にギャップをつくり植生の変化を観察する取り組みを開始してから10年が経過しました。かつて、下草もほとんど生えていなかったギャップ地の林床に日光が届くようになり、多種の植物が生育するようになりました。今では一面青々とした緑地を形成しています。あたかも秘密の花園のようです。春のチゴユリから秋のキヨスミギクまで色とりどりで、高木性のコナラやアラカシは3mを超えるようになっており、これらの葉や花の観察は地上からでは難しくなりました。そこで、樹木の名前が分かればより理解が深まり見学の方々にもギャップの植物観察を楽しんで頂けるのではないかと考え、樹名板を設置することにしました。



樹名板設置のための選木

設置する樹木の選定については、昆虫・鳥を呼び込む花や実をつけるもの、落葉樹を中心に日当たりの支障ない場所にあるもの、希少価値の高いもの、其々に緑色のリボンで目印を付けました。

選定した樹種は下記の24種です。

残存樹木・・・イタヤカエデ、エンコウカエデ、マメザクラ

高木・・・アカマツ、アラカシ、クリ、コナラ

小高木・・・クサギ、ヒイラギ、ヒサカキ、ヤマコウバシ

低木・・・ウグイスカグラ、キハギ、クロモジ、コウヤボウキ、コバノガマズミ、ツクバネウツギ、ナガバノコウヤボウキ、ムラサキシキブ、メギ、ヤマツツジ、ヤマハギ、ヤマブキ

多年草・・・オケラ

樹名板は20枚を予定していますので更に絞り込みが必要です。(秋元)

○今年もヒナノシャクジョウの開花を確認

昨年の7月17日の活動日にホテイ岬で200株以上というヒナノシャクジョウの大きな群落が確認されました。ヒナノシャクジョウは、千葉県のレッドリストでは最重要保護生物(Aランク)の希少植物です。今年も同じ時期に開花が見られるか確認するため、きのこ観察の途中でホテイ岬に行ってみました。



ヒナノシャクジョウ(大きさは約1cm)

昨年は、湖面に沿った苔の中にポツポツと咲いていましたが、今年は苔の中ではなく、やや内陸側で20株程度(探せばもっとあるかも)が開花していることを確認しました。ヒナノシャクジョウは菌従属栄養植物ですので、寄生している菌の生育状況により年によって開花位置や開花数が変化するのかもしれませんが、今後も継続して観察していきたいと思います。なお、同じ場所によく観察されるホンゴウソウについては、今回も見つけることができませんでした。(福島)

お知らせ

○次回の定例活動は8月18日(日)です。

相対照度調査、ヒメコマツ下刈り、植生保護柵補修、状況に応じてコナラ伐採地刈り払い、危険木伐採の予定です。詳細については今後調整します。ご参加をよろしくお願いいたします。

●担子菌類

◆Agaricales ハラタケ目

○Amanitaceae テングタケ科

- ・ *Amanita castanopsidis* コシロオニタケ [FB-48369]
- ・ *Amanita cheelii* オオツルタケ [FB-48370]
- ・ *Amanita fulva* カバイロツルタケ
- ・ *Amanita griseoturcosa* アオミドリタマゴテングタケ [FB-48359]
- ・ *Amanita gymnopus* カブラテングタケ [FB-48363]
- ・ *Amanita kotohiraensis* コトヒラシロテングタケ [FB-48354]
- ・ *Amanita pseudoporphyria* コテングタケモドキ
- ・ *Amanita vaginata* ツルタケ
- ・ *Amanita virosa* ドクツルタケ
- ・ *Amanita* sp. [FB-48371], [FB-48372], [FB-48373]

○Clitocybaceae カヤタケ科

- ・ *Collybia effusa* ヒロハアマタケ

○Crepidotaceae チャヒラタケ科

- ・ *Simocybe* sp. ビロードムクエタケ属

○Inocybaceae アセタケ科

- ・ *Inocybe* sp. アセタケ属

○Lycoperdaceae ホコリタケ科

- ・ *Calvatia craniiformis* ノウタケ

○Marasmiaceae ホウライタケ科

- ・ *Tetrapyrgos nigripes* アシグロホウライタケ
- ・ *Marasmiellus candidus* シロホウライタケ

○Physalacriaceae タマバリタケ科

- ・ *Cyptotrama asprata* ダイダイガサ
- ・ *Xerula sinopudens* コブリビロードツエタケ

○Pleurotaceae ヒラタケ科

- ・ *Resupinatus applicatus* シジミタケ

○Porotheleaceae ポロテレウム科

- ・ *Henningsomyces candidus* パイプタケ

○Stephanosporaceae ステファノスポラ科

- ・ *Lindtneria* sp. リントネリア属

○Tricholomataceae, キシメジ科

- ・ *Tricholoma* sp. オオニガシメジ類似種

◆Boletales イグチ目

○Boletaceae イグチ科

- ・ *Retiboletus ornatipes* キアミアシイグチ [FB-48367]

- ・ *Tylopilus balloui* キニガイグチ [FB-48368]

- ・ *Phylloporus* キヒダタケ属

- ・ *Tylopilus neofelleus* ニガイグチモドキ

- ・ *Tylopilus* sp. ニガイグチ属

○Tapinellaceae イチヨウタケ科

- ・ *Pseudomerulius aureus* キシワタケ

- ・ *Tapinella atrotomentosa* ニワタケ

◆Corticiales コウヤクタケ目

○Punctulariaceae プンクツラリア科

- ・ ケシワウロコタケ *Punctularia strigosozonata* [FB-48355]

◆Dacrymycetales アカキクラゲ目

○Dacrymycetaceae アカキクラゲ科

- ・ *Calocera cornea* ツノフノリタケ

◆Gastrales ヒメツチグリ目

○Gastraceae ヒメツチグリ科

- ・ *Gastrum* sp. ヒメツチグリ属

◆Hymenochaetales タバコウロコタケ目

○Hymenochaetaceae タバコウロコタケ科

- ・ *Fuscoporia gilva* ネンドタケ

- ・ *Fuscoporia setifera* ネンドタケモドキ

- ・ *Hymenochaete cyclolamellata* ワヒダタケ [FB-48360]

- ・ *Trichaptum bifforme* ハカワラタケ

◆Polyporales タマチヨレイタケ目

○Fomitopsidaceae ツガサルノコシカケ科

- ・ *Fibroporia radiculosa* ダイダイヤワツツアナタケ(仮)

- ・ *Fomitopsis dickinsii* ホウロクタケ

- ・ *Piptoporellus soloniensis* シロカイメンタケ [FB-48365]

○Panaceae カワキタケ科

- ・ *Panus conchatus* カワキタケ [FB-48366]

○Phanerochaetaceae マクカワタケ科

- ・ *Climacodon pulcherrimus* アセハリタケ [FB-48357]

- ・ *Rhizochaete radicata* キヒモカワタケモドキ [FB-48361]

○Polyporaceae タマチヨレイタケ科

- ・ *Cryptoporus volvatus* ヒトクチタケ
- ・ *Daedaleopsis styracina* エゴノキタケ [FB-48374]
- ・ *Daedaleopsis tricolor* チャカイガラタケ
- ・ *Lentinus arcularius* アミスギタケ
- ・ *Lentinus squarrosulus* ケガワタケ [FB-48358]
- ・ *Microporus affinis* ウチワタケ
- ・ *Trametes hirsuta* アラゲカワラタケ [FB-48375]
- ・ *Trametes orientalis* クジラタケ [FB-48353]
- ・ *Trametes coccinea* ヒイロタケ
- ・ *Trametes versicolor* カワラタケ

○Steccherinaceae ニクハリタケ科

- ・ *Nigroporus vinosus* ブドウタケ [FB-48362]

◆Russulales ベニタケ目

○Auriscalpiaceae マツカサタケ科

- ・ *Artomyces* sp. フサヒメホウキタケ属

○Russulaceae ベニタケ科

- ・ *Lactarius* sp. チチタケ属
- ・ *Russula* sp. ベニタケ属

○Stereaceae ウロコタケ科

- ・ *Stereum gausapatum* チウロコタケ [FB-48356]
- ・ *Stereum ostrea* チャウロコタケ

※ 種の配列は、担子菌類、子囊菌類、変形菌類の順に、各分類群の目、科、属の順はアルファベット順とした。属名のみのもはその属の菌が採集されたことを示す。千葉県立中央博物館 (CBM) に保存した標本は、[] 内に標本番号を表示した。(主な同定者：中島淳志 [硬質菌類、子囊菌類、小さな軟質菌類]、吹春俊光 [大きめの軟質菌類])

◆Thelephorales イボタケ目

○Thelephoraceae イボタケ科,

- ・ *Thelephora aurantiotincta* ボタンイボタケ [FB-48364]

●子囊菌類

◆Helotiales ビョウタケ目

○Chlorociboriaceae ロクシヨウグサレキン科

- ・ *Chlorociboria* sp. ロクシヨウグサレキン属

◆Xylariales クロサイワイタケ目

○Hypoxylaceae アカコブタケ科

- ・ *Hypoxylon* sp. アカコブタケ属
- ・ *Annulohypoxylon truncatum* クロコブタケ

●変形菌類

- ・ *Ceratiomyxa fruticulosa* ツノホコリ
- ・ *Lycogala epidendrum* マメホコリ
- ・ *Physarum viride* アオモジホコリ
- ・ *Trichia* sp. ケホコリ属